

施策番号	331	施策名	学校教育の充実	令和3年度主管課名	学校教育課
総合計画体系	政策名	3	創造豊かな教育・文化の里づくり	令和3年度課長名	金平 美和子
	関係課名			シート作成者	忠政 善貴

1. 施策の対象と意図の指標

① 施策の対象(誰、何が対象か)	③ 対象指標(対象の数・規模)	単位	区分	1年度	2年度	3年度	4年度	7年度		
ア 小学校児童	ア 町内の小学校児童数	人	見込値			661	634	617		
			実績値	650	659	661				
イ 中学校生徒	イ 町内の中学校生徒数	人	見込値			312	325	295		
			実績値	312	313	313				
ウ 学校施設	ウ 町内の幼稚園・小中学校数	校	見込値			9	9	7		
			実績値	10	9	9				
② 施策の意図(対象をどうしたいのか)		④ 成果指標(意図の達成度)		単位	区分	1年度	2年度	3年度	4年度	7年度
ア 調和のとれた人材に育ってもらう	ア 学校生活が充実していると答えた児童の割合	%	目標値	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0		
			実績値	85.7	89.0	92.8				
			達成率	95.2%	98.9%	103.1%	103.1%	103.1%		
イ	イ 学校生活が充実していると答えた生徒の割合	%	目標値	81.0	82.0	82.6	83.2	85.0		
			実績値	82.1	71.9	80.5				
			達成率	101.4%	87.7%	97.5%	96.8%	94.7%		
ウ 確かな学力と豊かな人間性を育てもらう	ウ 全国学力・学習状況調査の全国平均正答率との差(児童)	%	目標値			0.2	0.4	1.0		
			実績値	-1.7	実績なし	-1.5				
			達成率			-750.0%	-375.0%	-150.0%		
エ	エ 授業以外で平日1時間以上勉強する生徒の割合	%	目標値			60.0	62.5	70.0		
			実績値	57.5	67.8	60.5				
			達成率			100.8%	96.8%	86.4%		
⑤ 成果指標設定の考え方	豊かな人間性を持ち、調和のとれた人材に育ってもらうためには、バランスのとれた教育を受けることが重要であることから、「学校へ行くのが楽しい」と思える児童・生徒の割合、不登校児童生徒数を指標に、また、学力面は、県内で一斉に行われる学力・学習状況調査の平均正答率を指標に設定した。			⑥ 成果指標の把握方法と算定式等		ア・イ: 学校評価平均値 ウ: 全国学力状況調査平均値 エ: 全国学習状況調査				

2. 施策の役割分担

施策成果向上に向けた住民と行政との役割分担	① 住民の役割 (自助・共助・協働でやるべきこと)	② 行政の役割 (町・都道府県・国がやるべきこと)
	<ul style="list-style-type: none"> 学校は、保護者、地域と連携した教育の構築を図る。 保護者は、家庭学習習慣をしっかりと身につけさせるよう努める。 地域は、地域ぐるみで学校を支援し、子どもの成長を支える。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育環境の整備・充実を図る。 教育基本方針の作成を行い、学校に対しての指導助言に努める。 学校教育の充実(教職員配置の増員など)のため、国・県へ支援を要する。

3. 評価結果

3年度の評価結果	1. 施策の成果水準とその背景・要因	
	① 施策の目標達成度(目標値を達成したか、未達成か? その要因は?)	<p>○学校生活が充実しているかについては、学校評価における質問紙調査の結果から、小学校児童では92.8%で目標値を上回り、中学校生徒では81%で目標値を2%下回っている。学校生活に対する児童生徒の好意度はほぼ目標値通り達成している。</p> <p>○令和3年度全国学力・学習状況調査の平均正答率については、小6年度では国語算数の平均値を全国平均と比較して-1.5pであり、中3年度では-10.9pと大きく下回る結果であった。学力面については、目標値を下回っている。</p>
② 成果指標の時系列比較(成果は向上したか? 低下したか? 要因は?)	<p>令和3年度全国学力・学習状況調査より、「学校に行くのが楽しいと思いますか。」の質問項目で肯定的に答えた児童は85.7%⇒93.2%、生徒は82.1%⇒82.6%と、小学校・中学校とも向上がみられた。令和2年度は全国学力・学習状況調査は実施されなかったため、令和元年度全国学力・学習状況調査の結果と比較した。</p> <p>令和3年度全国学力・学習状況調査においては、平均正答率が小6国語65(全国64.7)+0.3p、小6算数67(全国70.2)-3.2p、中3国語57(全国64.6)-7.6p、中3数学43(全国57.2)-14.2pで、小6国語で全国平均を上回っていたが、その他は全て全国平均を下回った。特に中学校においては、全国平均よりもかなり低い状態にあるといえる。全国平均との差を令和元年度の調査と比較すると、小6国語は-1.8pから0.3pへと向上した。小6算数は、-1.6pから-3.2pへと低下した。中3国語は0.2pから-7.6pへと低下した。中3数学は-1.8pから-14.2pへと低下した。</p> <p>(令和3年度の取組結果は、令和4年度全国学力・学習状況調査4/19実施により結果を見ることができ、結果は8月に提供される。)</p>	
③ 他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか、低いのか、その背景・要因は?)	<p>令和3年度全国学力・学習状況調査における質問紙調査(小6、中3対象)では、「学校に行くのが楽しい」に対し「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の肯定的回答の割合は、小6は、93.2%全国83.4を9.8p大きく上回っている。中3は、82.6%全国81.1を1.5p上回っている。学校生活については、児童生徒ともに鏡野町の子どもたちは「学校が楽しい」ととらえていることがわかる。</p> <p>しかし、学力については中3数学で全国平均を大きく下回るなど、課題がみられる。</p>	
2. 施策を取り巻く環境変化(対象の変化、国県の動向、法改正等)と住民からの意見・要望など	<p>住民からは、子どもたちの学力アップのみならず、知・徳・体(生きる力)のバランスのとれた教育が求められている。また、小規模な小学校の保護者からは、統合を望む意見もある。</p>	
3. 施策の振り返りと総括(3年度の事務事業や取組の成果は? うまくいかなかった取組・問題点と原因は?)	<p>① 施策の成果向上につながった主な事務事業 小中学校情報機器整備事業費</p> <p>② 施策の成果向上のため改善を要する主な事務事業 鏡野町教育研修事業費</p> <p>③ 施策全体の振り返りと総括</p> <p>それぞれの学校において、学力調査の結果分析を行い、学校経営アクションプランに反映させてきた。また、家庭学習のスタンダードを活用し、保護者への啓発、チャイムスタートなどにも取り組んだ。</p> <p>中学校においては、平成28年度から全校で落ち着いて学習に取り組むことができ、成果が出てきつつある。</p> <p>教育環境の面では、1人1台端末のタブレットを導入し、ICT教育環境の整備に努めた。GIGAスクール構想の充実に向けて各学校にてICT活用の推進を行っている。情報教育担当者に研修を行ったり、意見交換会を開催したりして、校務の情報化や授業での活用を促進し、児童生徒の情報活用能力の育成に努めている。</p>	
4. 施策の今後の課題と改革改善の方向(今後、新たに取り組むべきこと、さらに力を入れる必要があることは?)	<p>① 今後施策の成果向上につなげる主な事務事業 小学校支援教員配置事業・中学校支援教員配置事業</p> <p>② 施策全体の今後の課題と改革改善の方向</p> <p>・学力の向上に向けて、全国及び岡山県学力・学習状況調査の結果を踏まえ、各校の課題を明確にし、課題改善に向けての取組を活性化させていく。令和4年度より学力向上推進委員会を町教委主導へと移行し、学力向上の取組を強化していく。また、令和3年度より、鏡野町独自の標準学力調査を導入している。各校に学力向上推進プランを作成してもらい、年間を通して校内研修を充実したり、授業改善、補充学習等の取組を推進したりしていく。また、ICT機器の活用、メディアコントロール等、家庭学習の充実に向けて児童生徒や保護者の意識改革などに取り組む。</p> <p>・不登校について、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーの有効活用による児童生徒・保護者の教育相談をはじめ、問題行動に関する校内研修会やケース会議を開催し、教員の指導力の向上を図る。また、子どもたちに人間関係力や自己指導力の弱さが見受けられるため、生徒指導推進連絡協議会の開催等により課題を共有し、積極的な生徒指導の推進を図る。</p> <p>・学校施設長寿命化計画に基づき、教育環境の整備を進める。</p> <p>・中学校における部活動の地域移行について、国や県からの情報を収集し、中学校や生涯学習課と連携を図りながら体制整備を行う。</p>	